

『すべては被災者のために』 ～救護は一日にして成らず～

平成30年11月3日(土)～4日(日)

長崎赤十字会館にて、職員63名が参加し、**常備救護班要員中級研修会**を実施いたしました。

被災地で一人でも多くの命を救うために、日頃からの備えが必要不可欠です。本研修では、南海トラフ地震災害を想定した実働演習等を通じて、救護員間で傷病者取扱いを円滑にするためのコミュニケーションを図り、情報収集・伝達能力の向上と、救護班としての的確な業務の知識と技術の習得を目的としています。

日赤長崎県支部では、災害時いつでも派遣できるチームとして、医師1名・看護師3名・薬剤師1名・主事（連絡調整員）2名の計7名からなる医療救護班を7個班登録しています。



人形を傷病者と見立てた
トリアージ訓練



原子力災害用防護服の着脱訓練！

実働演習後の
情報共有

